

【DTP】

競技課題は、「中学校でのバザー開催」の告知チラシの制作でした。

コロナ感染で多くのイベントが中止となり、学生をはじめ社会全体が内向きになっている時期から少し通常に戻ろうとしている兆しが見えてきましたので、そのような時期に地域の人々が力を合わせて開催する「中学校でのバザー」の告知チラシで年齢を問わないイベントに参加したいと感じてもらえる作品を期待しました。

今回は、テキストを少なく、写真・イラストを多く支給しましたが、バザーがイメージできていないと思われる作品となった様に思います。

写真やイラストを大胆に扱うとか、テキストもメリハリのあるデザインで見ると手に取ってもらえるような工夫が見えなかったのは残念でした。

仕上がりデータでは、フォルダに配置画像が入っていない、仕上がりトンボが無いという作品もあり、印刷データの基本的に必要な事柄の理解が不足している様に思いました。今後もレベルの向上を期待しています。

【ワードプロセッサ】

本年度は Microsoft Word 2016 を使用して「和文競技」「英文競技」の2問構成で、合計 90 分間の制限時間で実施しました。

和文競技・英文競技のふたつであり、説明文やイベント告知を課題としました。作成には表・図形・画像などをバランスよく挿入するスキルや、段組み・インデントなどを使ってレイアウトを設定するスキルが求められます。

本年度の大会は銅賞1名という結果でした。慣れない環境の中限られた時間で集中し、日ごろの努力の成果を出せたことが入賞という結果に結び付いたのだと思います。

【表計算】

今回の表計算の課題は、課題1は「請求書」の装飾・編集、課題2は「請求書」にワークシートのデータを使って請求書を作成していくデータベース的な関数を使用した課題、課題3は京都市の市町村の人口、面積のデータを利用したデータの並び替えや抽出を行う課題でした。

課題1の請求書の装飾や編集については、皆様、日頃から行っているようですので大変よくできていました。

ただし、課題2や課題3に関しては、評価がかなり分かれました。表計算 (Excel) は、多くの関数が用意されており、その関数をどれだけ知っていてどれだけ使えるかが重要になります。日頃からよく使っている関数だけでなく、あまり使わない関数も知っておくことが必要と思います。今回の課題2については、複数のワークシートのデータを利用した (抽出するなど) 課題にしましたので、簡単なデータベースのような課題でした。日頃使わない関数を利用することになったかもしれません。そこで評価が分かれました。

課題3は、データの順位付けおよび1位から10位までの抽出でしたので、使っている関数はそれほど難しいものではなかったと思いますが、課題2に時間を取られたために、課題3で時間不足という状況になったようです。

競技などの限られた時間内においては、作業をどの順番でどの関数を利用すれば効率よく (時間をかけずに) できるかということも重要なポイントになります。

今回の課題には使用しませんが、テーブルの機能や、Excel のバージョンアップによる新機能や新しい関数などが新たに表計算の出題範囲となっておりますので、頑張ってください。





【ビルクリーニング】

今年ようやく有観客で開催できたアビリンピック京都大会ですが、コロナ前は15名前後の選手が競い合っていたビルクリーニング競技も、今年は2団体合計6名の参加者となりました。とはいえ、観客の皆さんに競技を見てもらうことは、障がい者雇用へつながる大きな一歩です。

感染予防のため練習も十分に行えなかったのではないかと、長い間人と接することが制限されていた中で大勢の人前で競技できるのだろうか、などの不安もありましたが、選手たちは、しっかり日頃の練習の成果を発揮されたように感じました。特に、第三かめおか作業所は、団体としては数年ぶりのチャレンジにも関わらず、ブランクを感じさせない、すばらしい競技内容でした。また、鳴滝総合支援学校は当競技の常連校であり、緊張感がありつつも正確無比なさまは、さすが鳴滝！と思わせるものでした。

しかしながら、参加者の減少による目標設定の変化からか、京都代表はここ数年、全国大会で苦戦をしいられています。他の都道府県の選手のレベルも高くなってきており、参加企業、支援学校が、今まで作り上げてきた形を守りつつも、さらなるオリジナリティを追究し、創意工夫をされている結果と思われる。

大会前の練習会において、出場選手へのアドバイスとして基本的な動作を中心に教えてきましたが、今後は形にとらわれすぎず、柔軟な方法で、各団体の指導者と共にレベルアップを図ることが必要だと考えます。

次大会では、ぜひ新たな企業、支援学校からも参加していただき、当大会が盛りあがることを期待します。そして、より多くの方に障がい者の技能に対する理解を深めていただき、障がい者の雇用促進につながることを願っております。

【喫茶サービス】

喫茶サービスの選手の皆さん、日ごろの練習の成果は発揮できましたか？朝早くから緊張しましたが競技が2回目、3回目と回を重ねるにしたがって緊張がほぐれていく様子が見て取れました。貴重なチャレンジお疲れさまでした。

良いサービスとは、技術もさることながらお客様を笑顔で迎え、笑顔で送り出し、笑顔でお帰りいただくということに尽きます。

ふだん皆さんは生活の中ではいろいろなお店で接客を受けることがあります。飲食店に限らずスーパーであったり、洋服店やお菓子屋さん、駅の売店などいつでも「良いサービス」に出会う機会があります。皆さんにいつも意識してほしいのは良いサービスとあまり良くないサービスを見分ける

「目」を養うことです。こんな笑顔に出会えたらもう一度このお店に来てみようという気持ちを大切にしてください。気持ちの良いサービスの接客は技術より優先します。皆さんにはサービスが好きになってほしいと思います。

競技ですから総合で順位を付けなければなりません、皆さんがサービスに素直に向き合ってそれぞれ一生懸命工夫した接客の展開で、私ども専門委員の協議も楽しかったようです。選手の皆さんのそれぞれが、次のステップに向かい自信を持って「笑顔」で歩まれることを願って止みません。





【パソコン操作】

競技の特徴は、モニターに表示されている記入する文字や記入された文字、メニューなどの文字を読み上げる「画面情報読み上げソフト」や、これらの文字などを大きく表示する「拡大ソフト」（以下、支援ソフト）を活用し、マウス操作ではなく主にキーボードで操作することにあります。

課題は大きく2つで、表計算ソフトを使った課題とインターネット検索です。

表計算ソフトを使った課題は、「予定表」「会員名簿」「旅客運賃計算」「美容院情報」の合計4問を出題しました。

「予定表」「会員名簿」は、基本的な操作や関数の習得状況が問われる基礎的な課題であり、「旅客運賃計算」「美容院情報」は、使用する関数の理解度が問われる応用的な課題でした。

インターネット検索は、中部国際空港(セントレア)に関する課題で、Web ページに正確に早くアクセスできるかがポイントでした。

選手は、支援ソフトを使用していますが、全体像を瞬時に把握して確認することはできません。

表や列・行のタイトルからデータの内容を確認し、数式や関数を工夫し、それらの状況を音声などで確認します。

競技を通じ選手の点数、数式や関数の記述から技能や努力を感じることができました。

また視覚障害者のパソコン操作力は、本人のたゆまぬ努力はもちろんのこと、訓練や指導を受けることができる場の確保の必要性、習得した操作力が認知され、多くの人が就労し、業務で活躍できるような環境の構築が必要であることを改めて感じました。

【紙箱組立（貼り箱）】

紙箱組立競技は仕様書に基づいて大きさの違う2種類の被せ蓋方式の箱を制限時間内に、それぞれ10個ずつ作成します。箱の大きさや貼り付ける紙の種類（材質や厚み）も違うことから、当然糊の塗る量も変えなければなりません。競技では、紙の破れや表面のシワ、箱の角に空気が入らずこすれているか、商品として出せるかを一つずつ慎重に審査しました。

5名の出場者中4名が城陽校の修了生で、それぞれ違う職種で働いていますが、一年間訓練して身についた箱作りの感覚と丁寧に仕上げる気持ちを忘れずに取り組みしていました。

得点については、正確さと箱の内側の角の押さえが甘かったことと、後半に焦ってしまい最後の仕上げが少し疎かになったことが得点差になりました。

紙箱組立は、手先の器用さや集中力を身に付ける上でよい訓練だと思えます。また、商品を作ることでものを大切に扱うことや、納期を意識し自分の作業は確実にできる力が身に付きます。

今回出場の現役在校生と修了生全員、ものづくりや一年間の職業訓練を通して身に付けた力を現在の仕事やこれからの仕事の場でいかしつつ、これからも活躍してもらいたいと心から願っています。





【オフィスアシスタント】

「文書発送準備作業」と「郵便物仕分け作業」の2課題で実施しました。「印刷不良は取り除く」「折りずれやシワが出ないように注意する」「リストを見ながら仕分けする」などどちらも正確かつ丁寧な作業に加えて、スピードも求められる競技です。競技結果は、金賞1名、銀賞1名、銅賞1名、努力賞1名となりました。緊張感に包まれる会場の中で、選手の皆さんは集中して精一杯取り組まれました。参加選手の皆様には、今後も引き続き作業の正確さやスピードを磨いていただきたいと思います。

【ホームページ作成】

参加選手の制作物は、競技課題が求めた要件をほぼ満たしており、フロントエンドエンジニアとして、現場で働いていておかしくないレベルであると感じられるものでした。全国大会では、地方大会と異質な競技課題が出題されますが、ウェブ技術についての理解度から、全国大会出場に推薦することにしました。

【電子機器組立】電子機器組立競技には、1名の選手が参加されました。会場には見学者も訪れ、緊張感のある雰囲気の中で競技が行われました。

競技の課題については、暗所で人の動きを検知して、それに対して動作する機器を制御するための回路を組み上げる内容となっています。課題に取り組む際に必要となる技能については、「技能検定2級電子機器組立て」と同程度となっています。作製物が正常に動作することはもちろんのこと、はんだ付け作業や束線による配線作業などを限られた時間の中で正確に行う技術が必要となり、それに伴うさまざまな知識や技能、経験などが問われる競技となっています。

競技の結果については、金賞1名となりました。参加された選手の方は、課題を作製するにあたって必要となるさまざまな作業を正確に行えており、出来栄えについてもほとんどミスのない仕上がりとなっていました。今後においても、これまで培われた技能を活かして活躍されることを期待しています。

【パソコンデータ入力】

課題は「アンケート入力」「文書修正」「帳票作成」の3種類で実施しました。

課題1については、入力枚数が多いにも関わらず入力ができている人が多くおられました。さらに、タッチタイプの基本練習を重ねられたら、さらに入力ミスや入力速度アップにつながると思います。

課題2については、他の課題と比較すると差は小さく集中して取り組まれていました。時間が不足された方も多かったと思います。

課題3については、帳票作成に慣れておられなかった方が見受けられました。また課題見本のとおりに入力はできているが、指示通りの計算ができていなかった方がみられました。

課題ごとに結果を見ると、得意不得意の部分がはっきりと分かれていました。

今後は、この競技が業務で活かせるよう仕事の中でも入力の正確性、スピード、ミスを見逃さないスキルを身につけていってください。

